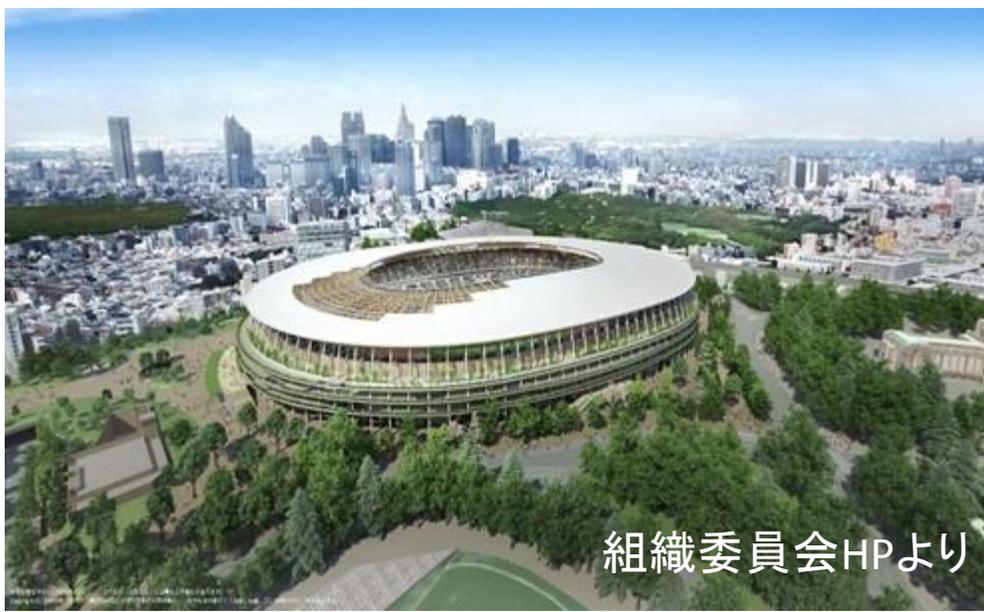


■ 170310 「持続可能な東京2020運営計画第2版への連携提案」

「東京2020とその先の持続可能性を考える」

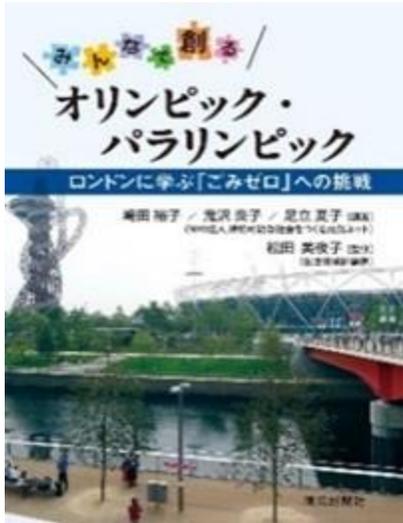
崎田 裕子

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長



「東京2020大会への提案」

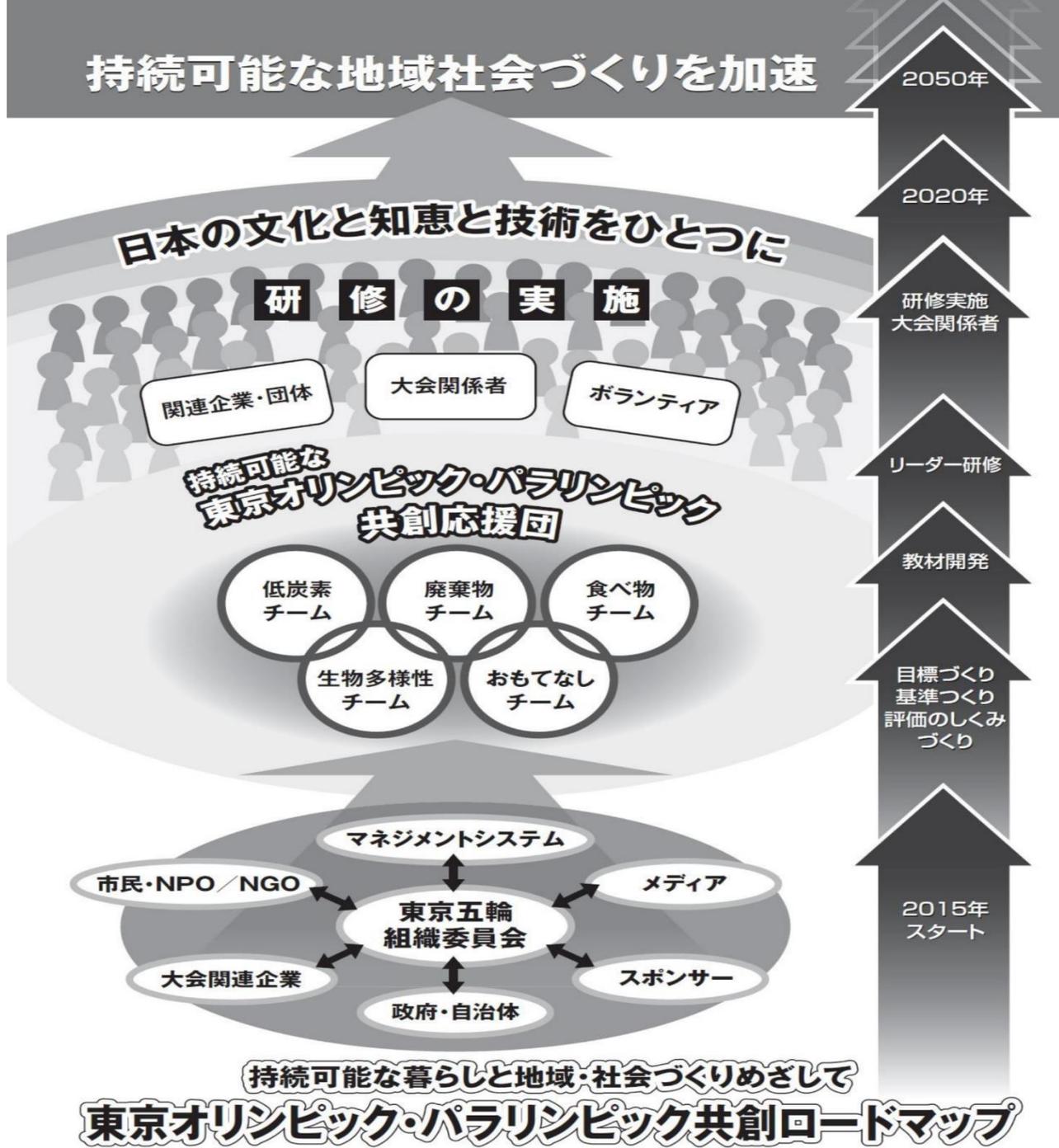
- ① 目標を明確にして持続可能性専門チームを設置
- ② 評価基準となるマネジメントシステムを導入
- ③ 持続可能性基準を浸透させる人材育成研修の徹底
- ④ 民間・NGO・市民との共創の明確化



▲崎田裕子・鬼沢良子・足立夏子編著
(NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット)
松田美夜子監修 (生活環境評論家)

「みんなで創る オリンピック・パラリンピック」(2015環境新聞社)

持続可能な地域社会づくりを加速



「2020とその後を見据えて提案する
東京オリンピック・
パラリンピック
共創ロードマップ」

2015年組織委員会「街づくり・
持続可能性委員会」に提案
NPO法人 持続可能な社会を
つくる元気ネット

持続可能な暮らしと地域・社会づくりめざして
東京オリンピック・パラリンピック共創ロードマップ

みんなで創る「東京2020大会」と持続可能なレガシー

■IOC2014年12月採択 「オリンピック・アジェンダ 2020」

オリンピック競技大会の総ての側面に持続可能性を導入する。オリンピック・ムーブメントの日常業務に持続可能性を導入する。

＜東京2020大会ビジョン＞

スポーツには、世界と未来を変える力がある。
1964年の東京大会は日本を大きく変えた。2020年の東京大会は、「すべての人が自己ベストをめざし(全員が自己ベスト)」、「一人ひとりが互いを認め合い(多様性と調和)」、「そして、未来につなげよう(未来への継承)」を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

「街づくり・持続可能性」専門委員会
アクション&レガシープラン検討

「持続可能性」ディスカッションG
「運営計画」「調達コード」等検討
提案募集も実施

「持続可能性に配慮した運営計画 フレームワーク」＜東京2020大会が目指すべき持続可能性の方向＞

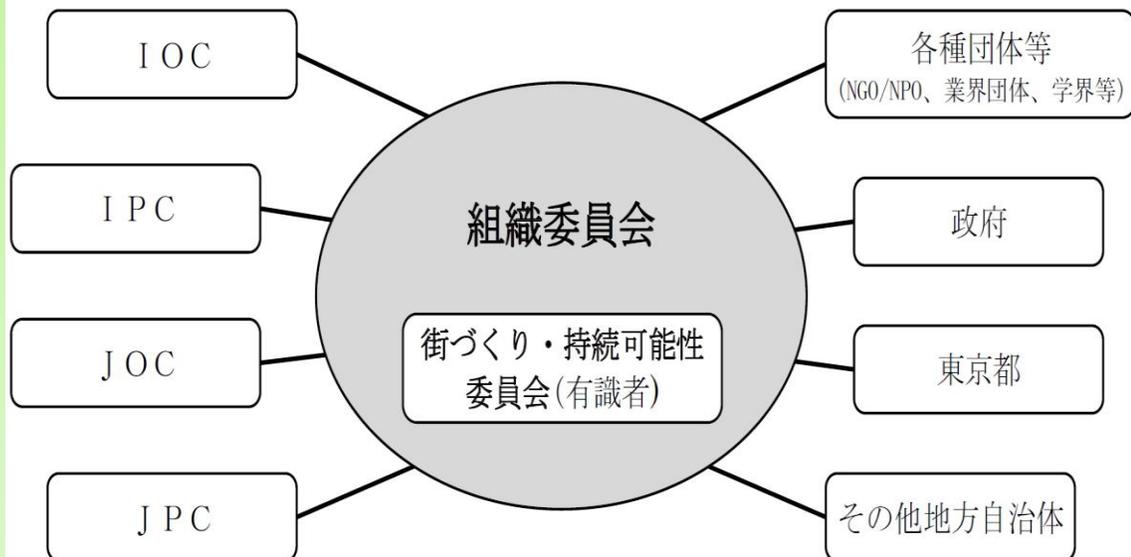
- 環境だけでなく、社会、経済の側面を含む
- 東京の特徴を活かす。充実した都市基盤・安全性、おもてなし・もったいないといった日本的価値観、最先端テクノロジー(より高度な省エネ・再エネ・リサイクル等環境対策技術)の活用など

運営計画 5つのテーマ

- ①気候変動 (低炭素WG)
- ②**資源管理 (資源管理WG)**
- ③水・緑・生物多様性
- ④人権・労働・公正な事業慣行等への配慮
- ⑤参加・協働、情報発信(エンゲージメント)

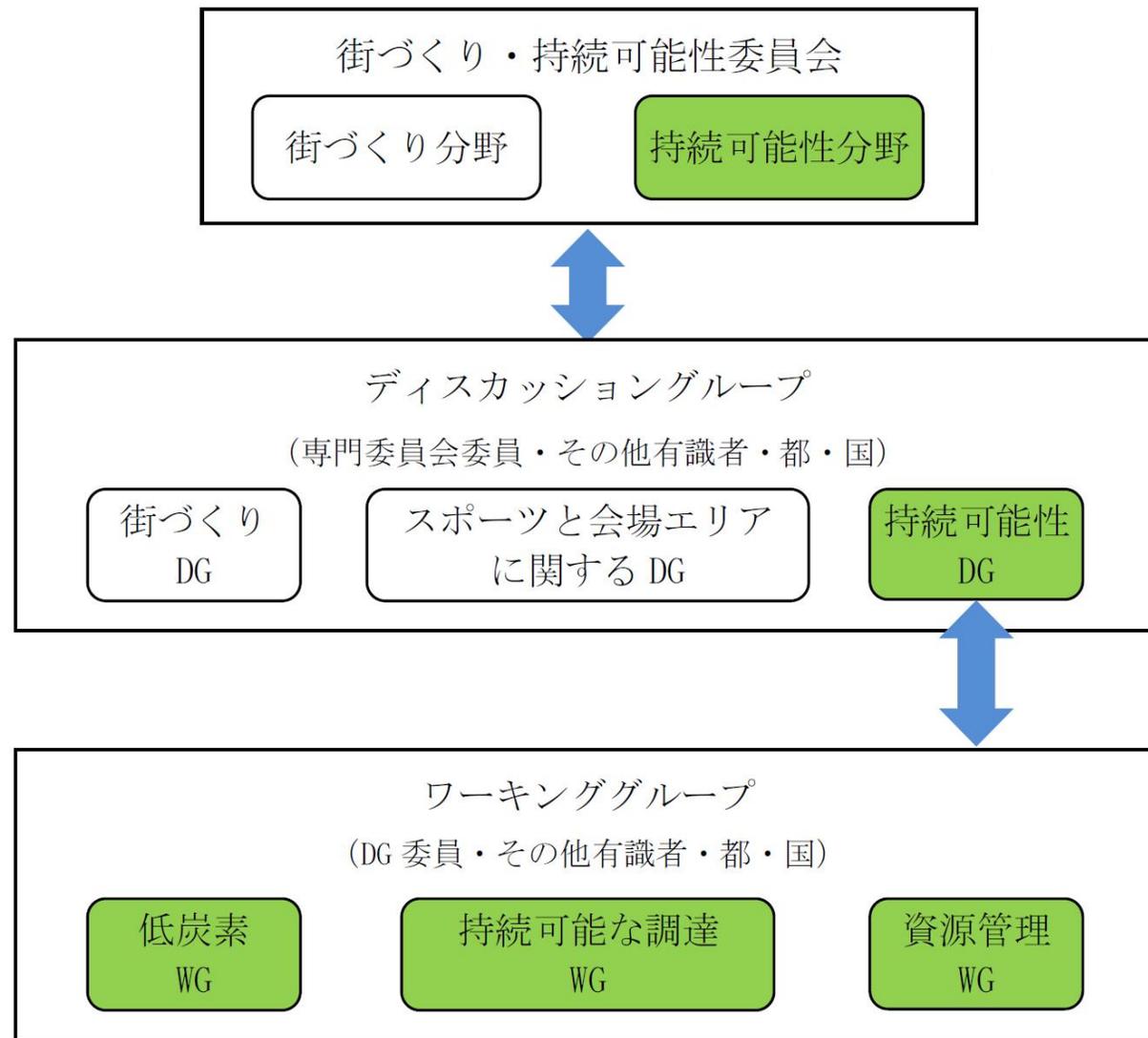
- 計画実現に活用する3つのツール
- ア 持続可能なイベントマネジメントシステムISO20121
 - イ 持続可能性に配慮した調達コード
 - ウ オリンピック大会影響調査

持続可能性に配慮した運営計画 第一版 2017.1



- ～運営計画 5つのテーマ～
- ①気候変動 (低炭素WG)
 - ②資源管理 (資源管理WG)
 - ③水・緑・生物多様性
 - ④人権・労働・公正な事業慣行等への配慮
 - ⑤参加・協働、情報発信(エンゲージメント)

～検討体制～



定量的目標や具体策を入れた第二版を2018年1月頃発表予定

目標は「ごみゼロ戦略」 東京2020の「3R・資源管理」と「レガシー」一覧

2017 NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット

	会場内&選手村	キャンプ地		会場外	レガシー
会場整備等の3R	都市鉱山回収でリサイクル100% 入賞メダル製作	後利用を確保した 什器・会場装飾等 物品調達と、 リユース・リサイクル	聖火のバイオ 燃料活用 (NGO提案)		★都市鉱山回収 京都マラソン実施 ★後利用考えた 調達とリユース
持続可能性 &3R ボランティア	3Rボランティア 研修システム (3R人材育成)	再生資源(ポリエス テル)活用のユニ フォーム(スタッフも)			★若者のボラン ティア参加
運営上の リデュース リユース	食品調達と 食品ロス削減 (フードビジョン)	リユースカップ 活用した ごみゼロ運営 (NGO提案)	使い捨て削減 ・レジ袋 ・容器包装 ・食器・カトラリー	・食品ロス削減 ・レジ袋有料化	★食品ロス削減 協定 ★大規模イベント のごみゼロ運営
運営上の リサイクル	資源分別回収 と適切な表示 (ピクトグラム)	食品廃棄物 の分別回収と 循環利用	バックヤード での分別徹底 資源循環の徹底	・ペットボトル回収 &ボトルtoボトル ・資源分別表示	★ペットボトル回収 &ボトルtoボトル ★資源分別表示
適性処理	食品廃棄物の エネルギー活用	各会場からの 適正排出	23区・都内外 での適性処理		★資源化率アップ ★埋め立てごみ ゼロへの挑戦

※緑は実施中・具体策調整中、黒は検討中、赤は今後検討の項目。2017.0310

目標は「脱炭素」 東京2020の「気候変動」「自然」と「レガシー」一覧

	会場内&選手村	キャンプ地		会場外・交通	レガシー
施設・会場整備等	大会車両の燃料電池車導入 福島の再エネでCO2フリー水素	新規恒久施設の省エネ化の徹底 などグリーン調達	選手村などの省エネ機器導入 などグリーン調達	公共交通機関の活用に向けた整備	★選手村の水素活用による再開発 ★省エネ施設建設
持続可能性ボランティア	ボランティアによる環境情報発信	ボランティアによる環境学習推進			★若者のボランティア参加
運営上の省エネ再エネ	全エネルギーのグリーン化				★メガイベントのエネルギーのグリーン化
CO2見える化 定量化・相殺	カーボンフットプリントの継続的算出と公表	競技施設内のCO2対策の分かりやすい発信・見える化	カーボンオフセットによる排出したCO2の相殺	熱中症対策で日陰づくりや遮熱性舗装など	・CO2の見える化 ・カーボンオフセットへの市民参加
大気・水・緑・生物多様性	お台場海浜公園の水質改善(雨水貯留等水対策)	おいしい水の提供・水と緑の魅力ある景観	化学物質対応低VOC・ノンフロン・低公害調達	・海の森公園整備 ・緑の東京募金による街路樹の管理	★葛西海浜公園のラムサール湿地登録へ(NGO提案)

※緑は実施中・具体策調整中、黒は検討中、赤は今後検討の項目。2017.0310

東京2020の「人権・労働」「参加・協働、情報発信」と「レガシー」一覧

2017 NPO法人持続可能な社会をつくる元氣ネット

	会場内&選手村	キャンプ地		会場外	レガシー
施設・会場整備等の取り組み	アクセシビリティ・ガイドライン策定し施設整備・スタッフ教育	障害者や育児中の親の観戦に配慮した会場整備			ユニバーサルデザイン等インクルージョンへの配慮
準備・運営上の取り組み	職員への持続可能性研修で意識改革と労働環境の整備	選手村・競技場で宗教・文化に配慮した料理の提供			労働環境や多様性への配慮
持続可能性ボランティア育成・研修	ボランティア8万人・東京都ボランティア1万人の研修				若人の社会参加
参加・協働情報発信	街づくり・持続可能性委員会・DG・WG NGO学識・都・国連携	青少年の大会参加・中高生対象スポーツと環境学習		東京2020参画プログラム展開で持続可能性浸透	世界の子ども若者と交流・ESDと連携した普及啓発
実現と影響調査	持続可能性に配慮した調達コード基本原則・木材・食料	ISO20121の導入による適切な運営確保	環境アセスメント(東京都)大会前中後の予測評価		OGI調査 環境・社会文化・経済の影響調査

※緑は実施中・具体策調整中、黒は検討中、赤は今後検討の項目。2017.0310

循環都市へ「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」

私たちの使っている携帯電話は、鉱山の金含有率の80倍・銀は9倍。
世界的に資源の効率的活用が課題の今、メダルのための
携帯や小型家電を回収をする初の大会に！

- 国民参画の観点 日本全国の方々が東京2020大会に参画
- リサイクルの観点 一回限りの運動ではなく、東京大会後へ
- ・金銀銅メダル各1666個に必要な金・銀・銅・亜鉛・錫・合計2t(材料ロス含め約8t)
- ・リサイクル材の回収・処理・精錬・納品まで一括管理し、トレサビリティの徹底。



ロンドン2012のメダル

★循環都市へ

- ・「選手村・競技場の食品ロス削減」「店頭回収」「レジ袋削減」「バイオ燃料聖火」ETC.

★東京2020「参画プログラム」を活用し、
市民・NGO・民間の参加機会の増大を

←東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会HPから



2016年度NPO持続可能な社会をつくる元気ネット検討会合(地球環境基金助成事業)

「東京2020大会の『ごみゼロ戦略』を考える」からの提案

①都市鉱山メダル・リユース食器 ②食品循環 ③④食品ロス ⑤資源循環・適正処理

～第2・3回 食品ロス削減をデザインする～

■食品ロス削減の仕組みをどうつくる

●適切な食材調達・保管 ●調理時のロス 削減

●食べ残し 削減 (調理側・食事側)

●効果を見える化、定量化する

●仕組みを関係者が実施するよう、担保する

■発生する容器包装ごみをできる限り削減する

■サプライチェーン・小売り・消費者への効果的な情報提供

■レガシーとして2020年以降の社会に活かす

👉多様な主体の参加する「食品ロス削減協定」の提案

脱炭素都市へ・東京2020選手村の水素等エネルギー活用の期待

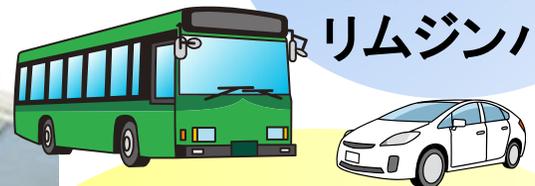
大会後に改修し5650戸の街に ※東京都市街地再開発事業

- 賃貸・分譲5650戸
- 高層棟は50階建て
- 他は14～18階建て

★分譲棟住戸に家庭用燃料電池を

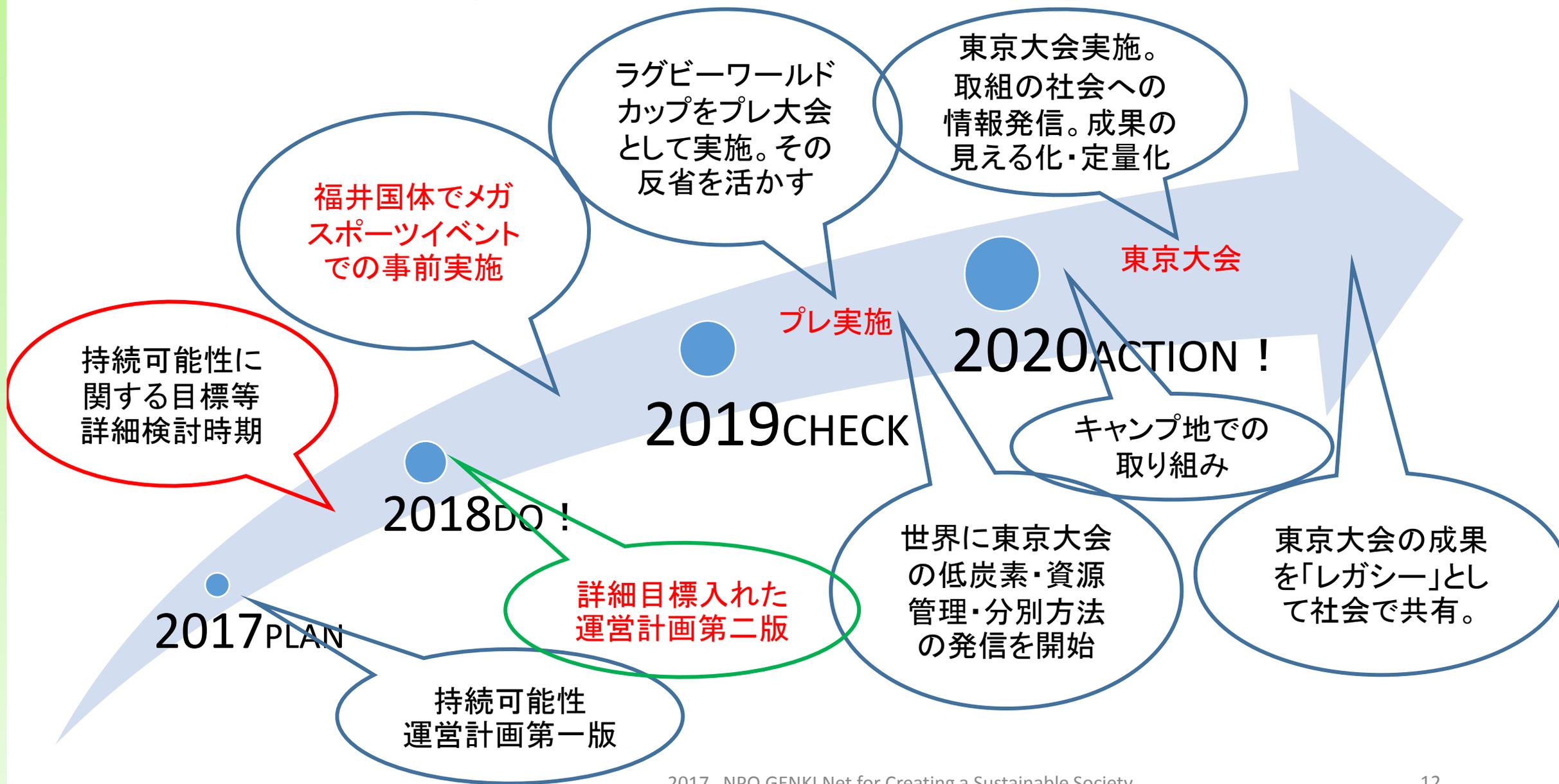
★使用後を考えた調達の重視と、
再使用・再利用市場の創出を。

東京2020大会後の選手村(イメージ) ※東京都都市整備局資料



←福島県内の再生可能エネルギーを活用し、
CO₂フリー水素の導入を進めるために
福島県・東京都・国のエネルギー研究機関・
東京都の活用機関の4者協定締結

2020とその先の持続可能な社会への「レガシー」PDCAロードマップ



「持続可能な開発目標 (SDGs)」視野に未来へ

2015年9月NY国連本部で「国連持続可能な開発サミット」開催。

★「世界を変革する 持続可能な開発のための2030目標」を採択。

17目標と

169ターゲット

国連広報センター
HPより



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標





京都市内で19日に開催される「京都マラソン2017」で、レース中にランナーへ提供されるスポーツドリンクや菓子、パンなどの残り分を、生活困窮者や福祉施設などに届ける取り組みが実施される。同マラソン実行委員会事務局は「環境に配慮し、余った食品を有効に活用していきたい」としている。

ランナーに提供の菓子やパン 余った食品有効に

また食べることができない食品であるにもかかわらず、廃棄されてしまう「食品ロス」は年間、国内で600万トンにも及ぶとされる一方で、日々の食事にも困る人たちが増えている。



京都マラソンでランナーに提供されるバナナ。余ったものはフードバンクで有効活用されることになった。(2017年3月11日、京都市北区)

フードバンク通じ 困窮者や福祉施設へ

矛盾が、社会的な課題として指摘されている。近年、ロスとなる食品を幅広く無償提供して困窮者たちの支援につなげる「フードバンク」の活動が広がりを見せており、今回も京都でフードバンクの活動を行う2団体を通じて提供するという。

今回は、パン、果物、菓子、飲料水など16種類の飲食物が、各給水所で配られる。大会終了後に余った食品や飲料水を回収し、賞味期限に問題があるものを除いて、フードバンク活動に取り組む「セカンドハーベスト京都」(下京区)と「フードバンク京都」(南区)に渡す予定。2団体が支援する京都市内の児童養護施設や困窮者支援団体などに提供される。

セカンドハーベスト京都の澤田明代表(50)は「供給元は一部の外資系の企業に頼っているのが現状。食品ロスを有効活用したい」と喜び、同事務局によると、来年の大会でも取り組みを続けるという。

(山下悟、佐藤知幸)

「環境配慮の大会」京から疾走!

小型家電から金メダル 五輪に先駆け来年から

リサイクル金メダルは計3個を作り、18年から、総合男女と車いす競技の優勝者に贈る。市が公共施設や



リサイクル金をメッキ加工した金メダルの試作品(左)＝京都市中京区・市役所

実行委と協力企業が協定

京都市は10日、ごみとして捨てられる小型家電に含まれる金をリサイクルし、来年から京都マラソンの優勝者のメダルにて贈るため、マラソン実行委員会や協力企業と協定を交わした。リサイクル金製のメダル作製は2019年東京五輪・パラリンピックでも検討されているが、京都マラソンでは先駆けて取り組む。

電器店で回収している携帯電話やデジタルカメラといった小型家電から、独自技術を持つアステック入江(北九州市)が純度の高い金を取り出す。さらに、メッキ加工を研究開発する京都市産業技術研究所(下京区)が、電気反応による特殊な技術でメダル1個当たり100分の金を表面に加工し、腐食し劣化のある「金メダル」に仕上げる。中京区の京都市役所で協定式に臨んだ門川大作市長は「『都市鉱山』とも呼ばれる小型電の金をメダルに使い、環境先進都市らしい発信」を挙げた。東京五輪でもメダルに利用されるよう機運を盛り上げたという話した。今月19日の大会では、従来の金色メッキを施したメダル(真鍮)も引き続き用いる。(日山店)

スキー場だより

10日 現在	
750	160
50	170
80	160
110	150
150	210
130	200
80	170
165	330
	330

市民・事業者・行政の連携で、レガシーへの第一歩は始まっている

京都マラソンでメガイベントの持続可能性具体化へ

2017 NPO法人持続可能な社会をつくる元氣ネット